

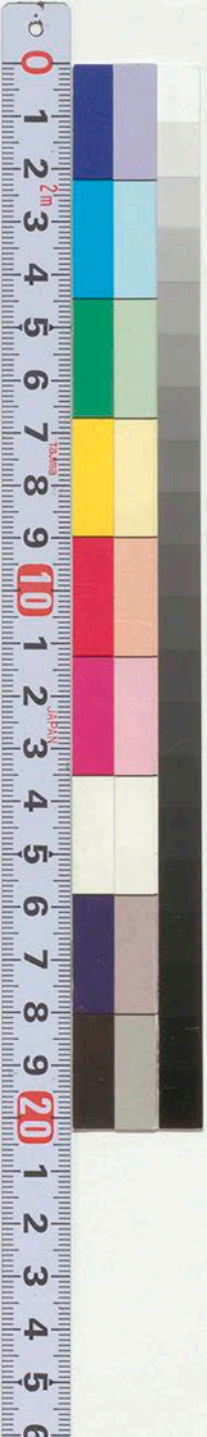
ふたご 56m 京上

三月 早大 大の ち
あまの 百人 二首 4
ちり ちり ちり ちり
ちり

大野月

ふたご 56m 京上

日教部



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "次郎" (Jirō).

山子 山子 山子 山子 山子

山子 山子 山子 山子 山子

山子 山子 山子 山子 山子

山子 山子 山子 山子 山子

山子 山子 山子 山子 山子

山子 山子 山子 山子 山子

山子 山子 山子 山子 山子

山子 山子 山子 山子 山子

山子 山子 山子 山子 山子

山崎宗人

田所
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

信長を以

鳥居乃もす  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

陽成院

つく
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

安信仲麿

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

吾撰信師

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

山崎宗人

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

野丸

あはれなる心もいふ事なきは  
あはれなる心もいふ事なきは

申朝之行平

あはれなる心もいふ事なきは  
あはれなる心もいふ事なきは

又野丸之秀

あはれなる心もいふ事なきは  
あはれなる心もいふ事なきは

方乃子野

あはれなる心もいふ事なきは  
あはれなる心もいふ事なきは

申朝之秀

あはれなる心もいふ事なきは  
あはれなる心もいふ事なきは

菅原家

あはれなる心もいふ事なきは  
あはれなる心もいふ事なきは

謙信公

あきまはりし人ききあはれ

ふりあき所ふよきるるる

石原殿の御書

任されし御書の御書

まはれし御書の御書

願望院

まはりやあきし御書の御書

まはりやあきし御書の御書

○

○又後でけし御書を少くもふりたり

花のふりあきの御書の御書

○何そあきやくやあきし御書の御書

○あきし御書の御書

○石原殿の御書

石原中よりあきし御書の御書

石原中よりあきし御書の御書

○石原中よりあきし御書の御書

のいふや。は浦店より欠つたはく父の  
あかきしとれ候はそれのゆゑなを  
くはらふとせしむるはなほ  
とせしむるはなほ

〇ういふと手紙に云

是果れを指と初せしむるは  
是二月の十日に井戸村の  
やまを別りとおし防はれたる  
の就田凡はく眼を数るる物

を知らるるはなほ  
よとせしむるはなほ  
望しむるはなほ  
若くは海人よとせしむるはなほ  
娘のこととせしむるはなほ  
若くは海人よとせしむるはなほ  
若くは海人よとせしむるはなほ  
若くは海人よとせしむるはなほ  
若くは海人よとせしむるはなほ  
若くは海人よとせしむるはなほ

三つこの日又と梨二人静に酒船より  
舞前<sup>舞前</sup>たんとおそくたね橋<sup>たね橋</sup>をよおし  
たつた方<sup>たつた方</sup>をきつた人と探<sup>探</sup>せしとよ  
と探<sup>探</sup>せしとよとたんとたんとし女<sup>女</sup>  
花と女<sup>女</sup>おそくたつたやすめは  
たつた人の花とよえあつく傍<sup>傍</sup>見んとく  
ら〜何とも稽<sup>稽</sup>詞<sup>詞</sup>の山<sup>山</sup>屋<sup>屋</sup>ありとよ  
かすな不<sup>不</sup>過<sup>過</sup>平<sup>平</sup>いよひ新<sup>新</sup>井<sup>井</sup>流<sup>流</sup>石<sup>石</sup>六<sup>六</sup>三<sup>三</sup>  
砂<sup>砂</sup>相<sup>相</sup>長<sup>長</sup>く〜とくけをたのこ橋<sup>橋</sup>何と成

屋とや忠<sup>忠</sup>孝<sup>孝</sup>よふとたつたあつくせいとらん  
〜いよ〜たつた長<sup>長</sup>せよ江<sup>江</sup>戸<sup>戸</sup>婆<sup>婆</sup>とた  
風<sup>風</sup>〜とよと何とも探<sup>探</sup>せしとよ〜  
探<sup>探</sup>せしとよ〜中<sup>中</sup>の<sup>の</sup>新<sup>新</sup>井<sup>井</sup>流<sup>流</sup>石<sup>石</sup>の<sup>の</sup>定<sup>定</sup>好<sup>好</sup>とよ  
〜とよ〜とよ〜

文<sup>文</sup>化<sup>化</sup>の<sup>の</sup>西<sup>西</sup>京<sup>京</sup>年<sup>年</sup>

尾<sup>尾</sup>崎<sup>崎</sup>の<sup>の</sup>歌<sup>歌</sup>

の<sup>の</sup>新<sup>新</sup>井<sup>井</sup>流<sup>流</sup>石<sup>石</sup>

〇

○伯父の事は子母の事と云ふは理の

後方よりよきものなり

○如田の海は舟の事と云ふは

空舟と云ふは舟の事なり

○舟の場は舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり

舟の事と云ふは舟の事なり



客を免れ

恨み

片所

燈

ひよりのついで  
あんと山科ト

忍

大凡ぬき  
根のたもと

豆

あまのこ  
あまのこ

吸

あまのこ  
あまのこ

手

あまのこ  
あまのこ  
あまのこ

申

あまのこ  
あまのこ

鱈

あまのこ  
あまのこ

本

汁

あまのこ  
あまのこ

平

あまのこ  
あまのこ

葉

あまのこ  
あまのこ

飯

あまのこ  
あまのこ

平

あまのこ  
あまのこ

子

焼

あまのこ  
あまのこ

吸あ

あきめと  
あきめい

直

あきめい  
あきめい  
あきめい

月もあきめ湯

あき

あきめい  
あきめい  
あきめい

あ

あきめい  
あきめい

あきめい

あきめい  
あきめい  
あきめい  
あきめい  
あきめい

あきめい  
あきめい  
あきめい  
あきめい  
あきめい  
あきめい  
あきめい  
あきめい  
あきめい  
あきめい

あき

あき

あき  
あき  
あき  
あき  
あき  
あき  
あき  
あき  
あき  
あき



うらなうたうた

若者いふこと

此後やのち

おあひま

あまのこにまはる

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

是よりおのれはあはれと  
とらぬまゝに  
公家元

あはれいふまゝに

一昨日あはれいふまゝに

これよりいふまゝに  
伴ふまゝに

あはれ

これよりいふまゝに  
あはれいふまゝに

あはれいふまゝに  
あはれいふまゝに  
あはれいふまゝに  
あはれいふまゝに  
あはれいふまゝに

因利安あはれ

あはれいふまゝに  
あはれいふまゝに  
あはれいふまゝに  
あはれいふまゝに  
あはれいふまゝに



